

# CSR活動トピックス

Glicoグループの重要課題として、特に重要度が高いと特定された3つのカテゴリに関する活動トピックスを報告いたします。

## TOPICS 1 企業統治

### グループ一丸となったCSR推進に向けて

#### —— 第1回CSRサミット開催



第1回CSRサミットの様子(方針説明)

Glicoグループでは、社会の要請に誠実に対応し、事業を通じた社会課題解決の取り組みを加速させていくため、2018年4月27日に「第1回CSRサミット」を開催しました。

本サミットでは、日本、中国、韓国、ASEANの拠点を接続し、CSR委員会関係者およびCSR職場推進リーダーの合計約140名が参加しました。

冒頭、CSR委員長よりグループ共通のCSRの考え方や意義が共有され、続いて各部長(環境・消費者・公正取引・人財・地域貢献の5部会)より、目的・目標が示されました。その後、「現代社会を踏まえて取り組むべき重要課題と解決策のアイデア」

をテーマとしたワークショップも開催し、今後グループ全体として注力すべき課題や、各グループ会社・部門等の現場レベルにおいてどのような対応が必要かについて、16の班に分かれて活発な議論を行いました。

本サミットの参加者を対象としたアンケート調査では、参加者のうち95%が「CSR推進に向けて活動意欲が高まった」と回答し、視座を高める重要な機会となりました。

今後も、継続的にCSRサミットを開催し、グループ一丸で活動を前進させていきます。



第1回CSRサミットの様子(ワークショップ)

## TOPICS 2 マーケティング・商品価値の向上

### 「Pocky 地元応援プロジェクト」第1弾

#### —— 公益財団法人を通じて、長野県の農業団体に助成金を贈呈



Share happiness! Pocky  
分かち合うって、いいね!

各地の主要駅や空港等の土産店で販売する地元ポッキー

全国各地の主要駅や空港等の土産店で販売している「地元ポッキー」は、地域の行政・JA・農家の方々等、地域コミュニティの協力を得て商品の原料開発を行うとともに、地域の厳選素材・人・土地の魅力を発信しています。

そのなかで、長野県の農家の方々との対話を通じ、「旬のおいしい特産品を食べてもらいたい」「特産品の魅力を知ってもらいたい」という想いに触れ、特産品を地元ポッキーとともにお届けする「Pocky地元応援プロジェクト」をスタートしました。

このプロジェクトでは、クラウドファンディングプラットフォーム「CAMPFIRE」を活用し、旬の特産品と地元ポッキーを知って

もらうだけでなく、地元の魅力を伝えることで、農業活性化のための活動資金を募集しました。その結果、1カ月間で当初の目標金額を上回る支援金が集まり、支援者に旬の信州巨峰と「ポッキー〈信州巨峰〉」等をお届けしました。集まった総額60万円の活動資金は、公益財団法人「長野県みらい基金」を通じ、公募で決定した6つの農業関連団体に助成金として贈呈し、将来の農業の担い手を増やすための活動や農業育成事業に使用される予定です。

今後も、「地元への恩返し」をテーマに、地元ポッキーを通じた地域コミュニティへの貢献に取り組んでいきます。



2018年12月20日「Pocky 地元応援プロジェクト基金」の贈呈式

## TOPICS 3 品質安全

### 日本初、乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を販売開始

#### —— 災害時の備えと育児の負担軽減に



アイクレオ赤ちゃんミルク

近年の度重なる自然災害によって、非常時に赤ちゃんの命をつなぐミルクの確保が難しいことが明らかになってきました。また、お母さんへの過度な育児負担が問題視される中、調乳不要の液体ミルクが注目されるようになりました。女性労働率が高く子育て先進国と呼ばれる北欧では、育児をサポートするツールとして50年ほど前から液体ミルクが活用されています。

そうした社会課題を背景に、日本においても液体ミルクの発売が急務と捉え、江崎グリコでは2016年から開発に着手し、新生児から飲める安全性と、注ぐだけで準備できる簡単さを両

立した「アイクレオ赤ちゃんミルク」を開発しました。同商品は2019年3月5日に、消費者庁より特別用途食品の表示許可を受け、同日、自社通販サイトにて販売を開始しました。

長期保存ができるため災害時の備えに有効なほか、外出時や調乳に不慣れな家族に預ける際にも便利で、育児の負担軽減をサポートします。災害時には赤ちゃんの命を守り、日常では子育てを支援する取り組みを進めていきます。



2019年3月11日「アイクレオ赤ちゃんミルク」体験会の様子